

第12回共生のひろば 受賞者一覧

口頭発表部門 (1件)

館長賞：河川におけるヒラタカゲロウ類の住み分けに関する研究

—礫を単位とした生息空間における住み分け現象の発見—

久後地平・菅田典秀・松本篤哉・藤原紅葉・黒田有梨 (兵庫県立香寺高等学校自然科学部)

展示ポスター部門 (4件)

名誉館長賞：自然素材で作った「歩くワニ」 / 大橋正規 (六甲山自然案内人の会)

校庭の「生きもの調べ」はじめたよ！ / 志手原放課後子ども教室

館長賞：キーナに來いな！「キーナの森」の活動日誌

—生物多様性のシンボル拠点をめざす公園の取り組み—

山本佳奈 (環境学園専門学校)・堀田佳那・明会直晃・野口結子 (神戸大・農)・

神戸市建設局公園部緑地課

自然科学が創作に与えるインスピレーションとその還元

藤田敦子・林隆一・田中一秀・今尾真也・北尾真澄 (百科編集部)

編集後記

今年も数多くの方が共生のひろばにて発表いただき、ありがとうございました。前日は大雪だったにも関わらず、欠席者がゼロ、およそ1100名の方が来館したにも関わらず、スムーズに運営することができました。当日は、参加者のみなさんに随分と助けて頂きました。共生のひろばのことを我が事のように来館された方に説明して頂いただけでなく、来年はぜひ発表者に、とお誘いくださっていた点がとても印象に残っています。また、パネルや机運びなどの後片付けも助けて頂きました。来館された方からも、古い友人に出会うことができた、お得な一日だったこと、自分でも何か身近な自然のことを調べてみたくなったとの声も聞くことができました。あらためて皆さんにお礼申し上げます。

今年度の会合は、特に県外からの発表も数多くあり、それにともなって県外からの聴講来館者の方も目立ちました。会合のなかで、初めて他府県から参加された方々からの意見を伺う機会がありました。感想を伺うと、これだけ緩い感じで自由で多様なテーマで発表できる会合はなかなか無いし、ややもすれば学術的な部分が疎かにされがちだが研究という軸がしっかり基盤になっているとの意見でした。参加者の誰もが同じとは思えませんが、11回目以降の課題である「敷居をさげてテーマや取り組みの多様性を確保する」という点では、当初の目標に達したように思いました。来年度についても、すでにいくつか課題を頂いておりますので、運営側も工夫を重ね、杓子定規のコピペ会合ではなく、会を重ねるごとにより内容が充実するようにしたいと思います。

(共生のひろばプロジェクト代表 三橋弘宗)

共生のひろば 12号
人と自然からのメッセージ

2017 (平成 29) 年 3 月 28 日 印刷

2017 (平成 29) 年 3 月 28 日 発行

発行 兵庫県立人と自然の博物館

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 6 丁目

題字 河合雅雄 書